

泌尿器科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 分子標的療法時代における転移性腎細胞癌の予後に関する多施設疫学調査

[研究機関] 北海道大学病院泌尿器科

[研究責任者] 篠原 信雄（泌尿器科・准教授）

[研究の目的]

最近、転移性腎細胞癌に対し、欧米のみならず本邦においてもネクサバルやスーテントといった分子標的療法剤が広く用いられています。しかし、現時点では本当に日本人の患者さんに対し有効で予後を改善するかどうかという点はまだ明らかではありません。そのため、分子標的療法が使用可能になってからの転移性腎細胞癌症例のデータを集積し、予後を明らかにするとともに、欧米の患者さんの予後との比較、さらに今後の治療選択に役立つ日本人患者さんの予後予測因子の探索を行うことを目的として本研究を企画しました。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2008年から2010年までに臨床的に腎細胞癌と診断され、初診時もしくは経過観察中に転移を認めた方

●利用するカルテ情報

性別、生年月、診断日（臨床的に腎細胞がんと診断された日）、発見動機、腎摘の有無、初診時 TNM 分類、静脈浸潤V (+/-), Grade, 組織型、初回治療薬の内容 (IFN- α , IL-2, ネクサバル,-スーテント, トーリセル, など)、初回治療開始日、初回治療開始時のPS、転移臓器および転移臓器数、血液生化学的検査所見 (WBC, Hb, Pt, LDH, Ca, Alb, CRP)、初回治療後の進展日、二次（三次、四次、五次）治療の開始日、二次（三次、四次、五次）治療薬の内容、二次（三次、四次、五次）治療開始時のPS、転移臓器および転移臓器数、血液生化学的検査所見 (Hb, Pt, LDH, Ca, Alb, CRP)、二次（三次、四次、五次）治療の進展日、転移巣切除日、切除臓器、最終観察日

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目

北海道大学病院泌尿器科 担当医師 篠原 信雄

電話 011-716-1161 FAX : 011-706-7853